

水産の窓

令和8年冬春季(3~5月)の沿岸漁海況予報

1. 令和7年冬春季(3~5月)の海況予測

(1) 海況の概要(3月上旬)

2月24日の海面水温図を図1に示しました。黒潮続流は波崎の東約30マイルを北上しており、北限は142° 30' E付近で37° N付近まで達し、北偏傾向にあります。

茨城県沿岸域の水温は、12~16°C台(黒潮が流れる沖合域は17~19°C台)で、暖水の影響がみられます。

また、現在、親潮第一分枝から派生した親潮系冷水が福島県沖まで南下しています。今後、黒潮続流の流路によっては、本県沖に親潮系冷水が差し込む可能性があります。

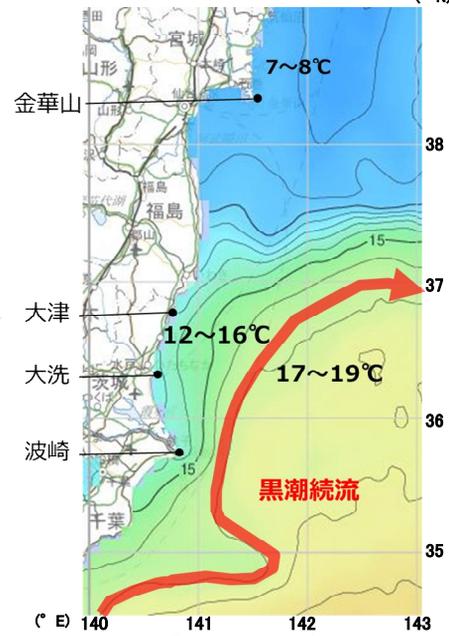


図1 気象庁「海洋の健康診断表」より海面水温図(令和8年2月24日)

(2) 海況の予測(3~5月)

1月と2月の海況を、図2のように

暖水パターン: 黒潮からの暖水の影響が強い

中間パターン: 暖水・冷水パターンの中間

冷水パターン: 親潮からの冷水の影響が強い
に分類すると、

1月は「暖水パターン」、2月は「中間パターン」に近い「暖水パターン」となりました。

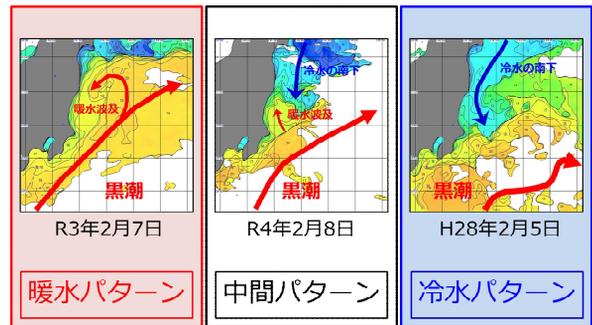


図2 各海況パターンの模式図

今年の2月は若干冷水の影響を受ける「暖水パターン」でしたが、近年の動向をみると、1月、2月が「暖水パターン」であった年は3月以降も継続することが多いため、今年の3月以降も、「暖水パターン」が続く可能性が高いと考えられます。

<海況予測>

○黒潮の北偏傾向が継続しており、現在、本県沿岸域では**黒潮からの暖水の影響がみられる。**

○親潮第一分枝から派生した冷水が福島県沖まで南下している。

○3月以降も「**暖水パターン**」が続く可能性が高いが、本県沖に一時的に冷水が差し込む可能性もある。

以上より、茨城県沿岸域の水温は引き続き「**高め傾向**」で推移すると考えられます。

2. 令和8年冬春季の船びき網漁況予測

(1) シラス

直近5ヶ年の冬春季のシラス漁模様を図3に、カタクチイワシ卵採集密度の推移を図4に示しました。

また、今年の漁模様について、次の観点から予測を行いました。

- ・黒潮続流の北偏傾向が続き、本県沿岸域の水温は引き続き「高め傾向」で推移する見込み(前述)であり、シラスの漁場形成には好適環境となる。
- ・1月、2月の調査で成熟したカタクチイワシ成魚が確認されず、卵もほとんど確認されていない。

【予測】

4月まではシラス漁は低調に推移する

※沖合のまき網漁場でカタクチイワシ成魚が確認されていることから、これらが順調に成熟・産卵すれば、5月以降徐々に漁模様が好転する可能性がある。

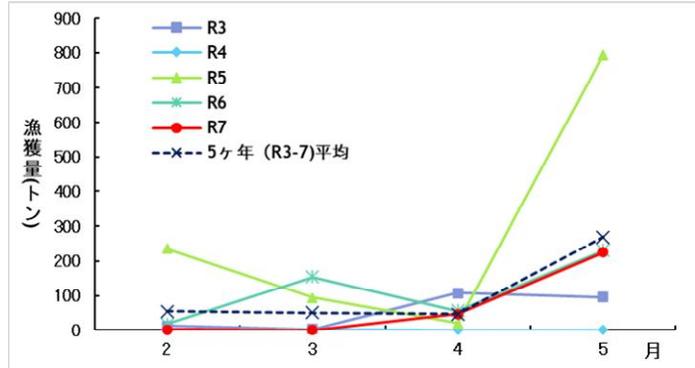


図3 過去5ヶ年の冬春季シラス漁獲量月別推移

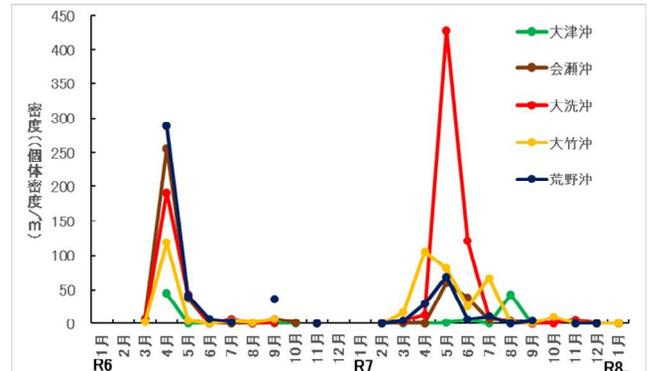


図4 カタクチイワシ卵採集密度の月別推移

(2) イカナゴ

本県で漁獲されるイカナゴは、仙台湾からの来遊群が主体と考えられています。宮城県のイカナゴは平成31年以降、ほとんど漁獲がなく、発生量は極めて低水準で、令和8年漁期前調査でも資源回復の兆しが見えません(図5)。

【予測】本県では漁場形成しない

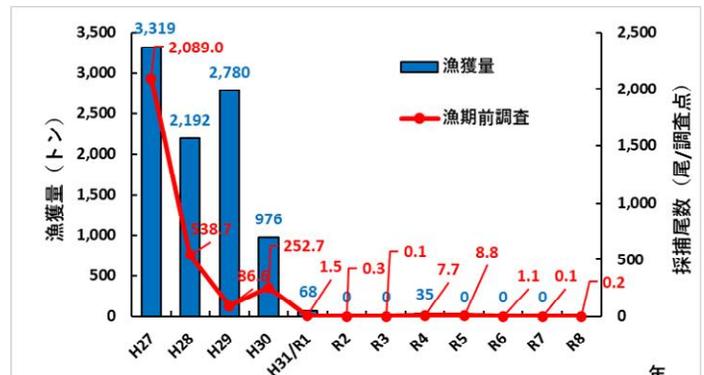


図5 宮城県イカナゴ漁獲量と仙台湾の漁期前調査結果の推移

(3) オキアミ

9°Cの海面水温は3月上旬に相馬付近まで留まっており、本県への冷水の南下は期待できません(図6)。

【予測】本県での漁場形成は難しい

令和7年4月に黒潮大蛇行が終息し、海況に変化が起こりやすくなっています。引き続き海況変化等に注視し、変化があればあらためて情報発信します。

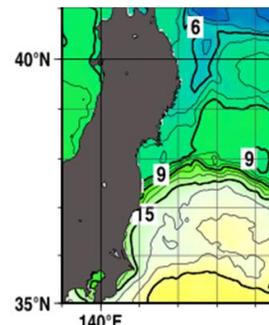


図6 R8年3月10日の海面水温図 (気象庁海洋の健康診断表より)

(回遊性資源部 茅根 正洋・長谷川 拓哉)

【次回予告】 R8.3.19 発行の「水産の窓」は「令和8年3月の海況と今後の予測」を予定しています。